琉球大学学術リポジトリ

沖縄諸島先史時代石器文化の研究：石斧、石鏃、石皿・台石類

メタデータ	言語: Japanese 出版者: 琉球大学 公開日: 2018-05-10 キーワード (Ja): キーワード (En): 作成者: 安里, 嗣淳 メールアドレス: 所属:
URL	http://hdl.handle.net/20.500.12000/40992

様式第７号

学　位　論　文　要　旨

学位論文題目　　沖縄諸島先史時代石器文化の研究―石斧、石鏃、石皿・台石類

沖縄諸島先史時代の石器文化のうち石斧、石鏃、石皿・台石類について時期や地域ごとの出土状況をまとめ、先行研究も参照しつつ独自の方法で分類・集計をおこなった。これをもとに奄美群島や南九州の石器文化との比較検討をおこない、その結果先史時代のほぼ全時期を通して、北琉球先史社会は縄文時代の枠組みのなかで展開してきたことが明らかとなった。

石斧、石鏃、石皿・台石類のいずれも森林資源の高度利用に成功し、定住社会を形成した日本縄文時代の人と文化を起源として、奄美群島・沖縄諸島への拡散活動がもたらした物質文化である。さらにサンゴ礁湖という新たな生業環境に適応して独自の石器文化を形成するようになった。

石斧の場合、石材は集団による選択があり、いくつかの供給ルートが存在していたことが把握された。また石材は産地との距離関係にかかわらず沖縄諸島に広く確認されていて、均等分布を示していることも明らかとなった。これは沖縄諸島先史社会が広い範囲で交流、交換取引関係をもち、円滑な社会関係が恒常的に維持、継承されていたことも示している。

集落の大型住居に限って石斧が集中出土するのは、集会場や共同作業の機能をもったムラの共同空間の存在を示すものと解釈した。また石皿・台石類は住居内で使用され、定住社会特有の石器であることを堅果類の処理作業とあわせて考察した。

弓射の文化は発達せず、弓矢は祭祀において使用する第二の道具に転化した。九州の良質腰岳産黒曜石は起源地の価値観であり、沖縄諸島からの交易要求はなかった。

先史時代末期まで石皿・台石類、磨石・敲石類が使用され、サンゴ礁湖の漁労と森林性植物質食料を生業の基盤のひとつとする社会が続いていた。これが稲作開始の遅れにつながり、階層社会、階級社会の形成と古代国家の出現を遅らせることとなった。

琉球大学大学院

人文社会科学研究科

比較地域文化専攻

学生番号 [redacted]

氏　名　安里嗣淳